

野菜花き 8月下旬巡回調査結果の概要について

【東北信】 巡回日 8月24日、26日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であつた。虫害では、ハダニ類の寄生が特に多く、葉への被害が目立った（図1）。オオタバコガの産卵は6月下旬から継続して確認され、被害果もわずかにみられた。また、アザミウマ類とハモグリバエ類の寄生のほか、病害では、輪紋病の発生がみられた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であつた。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がほぼすべての株でみられたが、天敵寄生蜂により前回調査同様、多発には至っていなかった。アザミウマ類、ハモグリバエ類の寄生が少ないながらみられた。病害では、斑点病、輪紋病の発生がみられた。



図1 トマトの葉に寄生するハダニ類と被害葉（小諸市）

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であつた。虫害では、ほ場の一部でアブラムシ類が寄生し、排泄物による葉の汚損がみられた。病害では、うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、つる枯病（図2）がみられたが少発生であつた。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であつた。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は前回調査よりも低かつた。病害では、灰色かび病、べと病の発生がみられた。



図2 きゅうりのつる枯病（長野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であつた。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられ、前回調査で低下した寄生花率は、増加に転じた。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、生育期（15葉期）であつた。アザミウマ類の寄生（図3）とウワバ類等チョウ目害虫の食害が目立ち、全調査株で被害がみられた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、生育期（7葉期）であつた。チョウ目害虫の食害株がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、結球始期であつた。チョウ目害虫の食害株が少ないながらみられた。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、生育期であつた。チョウ目害虫の食害がやや目立ち、ウワバ類、モンシロチョウ、シロイチモジヨトウ（図4）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。



図3 キャベツに寄生するアザミウマ類（小諸市）



図4 キャベツに寄生するシロイチモジヨトウ（長野市）

5 ブロッコリー

御代田町の巡回ほ場は、収穫期であった。アザミウマ類の寄生とコナガ等チョウ目害虫の食害が目立ち、全調査株で被害がみられた。病害では、葉に黒すす病の発生がみられた（図5）。

南牧村の巡回ほ場は、花蕾形成期であった。虫害では、ウワバ類等チョウ目害虫の食害株がやや目立った。病害では、黒腐病の発生がみられた（図6）。



図5 ブロッコリーの黒すす病
（御代田町）



図6 ブロッコリーの黒腐病
（南牧村）

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、べと病、ピシウム腐敗病（図7）の発生がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害が少ないながらみられた。

小諸市及び南牧村の巡回ほ場は、生育初期（5葉期）であった。いずれもチョウ目害虫の食害がわずかにみられ、病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、定植直後（4葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。



図7 はくさいのピシウム腐敗病（上田市）

7 レタス

上田市、小諸市、南牧村の巡回ほ場は、生育初期（5～6葉期）であった。上田市及び小諸市で、すそ枯病の発生がわずかにみられた（図8）。虫害の発生はいずれもみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、定植直後（4葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。



図8 レタスのすそ枯病（小諸市）

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が高かった。病害では、茎枯病が前回調査と同程度でみられた。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎繁茂期であった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられ、寄生株率は低かったが、前回調査よりも増加した。病害では、茎枯病がみられ、昨年よりも発生は遅かった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。虫害では、アザミウマ類、ハダニ類の寄生株率が高かった。病害では、茎枯病の病勢がやや進展し、枯死する茎もみられた（図9）。



図9 茎枯病で枯死したアスパラガスの茎（飯山市）

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。病害虫の発生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

【中南信】 巡回日 8月20日、21日、24日、25日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、着果中であった。葉にコナジラミ類（少発生）の寄生がみられた。

2 きゅうり

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫始期であった。花および葉にアザミウマ類（中発生）の寄生がみられたほか、上位葉にワタヘリクロノメイガ（少発生）の寄生がみられた（図10）。

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫中であった。花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられた。



図10 きゅうりのワタヘリクロノメイガ（松本市）

3 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、定植直後であった（収穫終了によりほ場変更）。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、生育期（4～5葉期）であった。病虫害の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期（6～7葉期）であった。葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。

4 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、生育期（6～7葉期）であった。病虫害の発生はみられなかった。

木祖村の巡回ほ場は、結球期であった。病虫害の発生はみられなかった。

5 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、結球期であった。外葉にすそ枯病（少発生）がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。病虫害の発生はみられなかった。

6 アスパラガス

豊丘村の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎期であった。擬葉にアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも中発生）の寄生がみられたほか、擬葉および若茎にハダニ類（中発生）の初発が確認された。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

飯島町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は立茎期であった。擬葉にアザミウマ類（中発生）がみられたほか、擬葉中心にハダニ類（中発生）が再発していた。病害では、茎枯病（中発生）が続けて発生しており、前回と同程度であった。

松川村の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎期であった。擬葉にアザミウマ類（多発生）の寄生がみられ、依然として高密度の状態が続いていた。

7 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉9.0～10.0葉であった。前回同様、葉に黒斑病（多発生）およびさび病（少発生）の発生がみられた。虫害についても、葉にアザミウマ類およびネギハモグリバエ幼虫（いずれも多発生）の寄生がみられた。

山形村の巡回ほ場は、本葉7.5～8.0葉であった。前回同様、葉にアザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ幼虫の寄生（中発生）がみられたほか、ヨトウ類による葉の食害がみられた（図11）。病害では、黒斑病およびさび病（中発生、少発生）の発生がみられた。



図11 ヨトウ類に食害されたねぎ（山形村）

8 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病虫害の発生はみられなかった。

9 きく

富士見町の巡回ほ場は、着蕾始期（草丈約62cm）であった。上～中位葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられた。